

登録ストックヤード運営事業者の運営状況調査結果（概要）

ストックヤード運営事業者登録制度の充実等を図るために、登録ストックヤード事業者を対象に、ストックヤードの運営状況等について調査を実施しましたので結果を報告いたします。

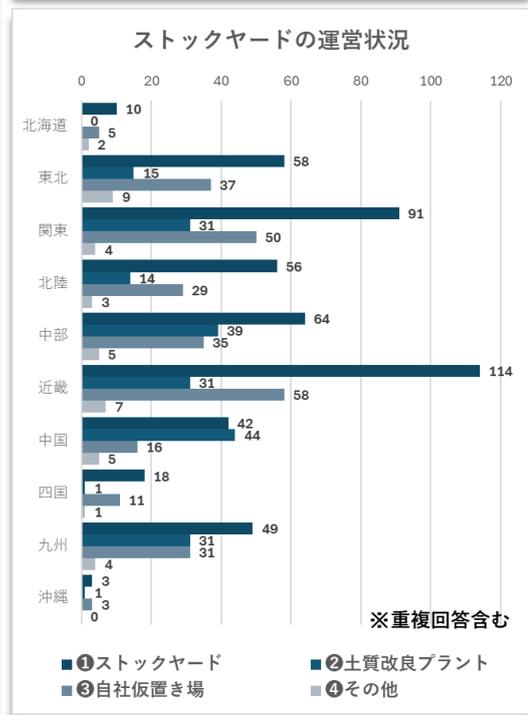
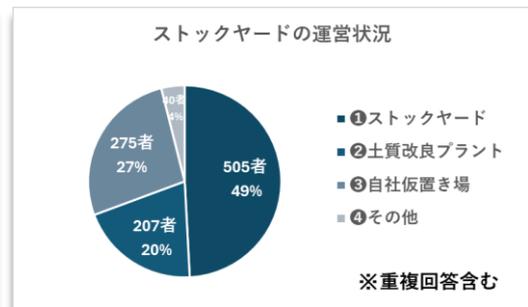
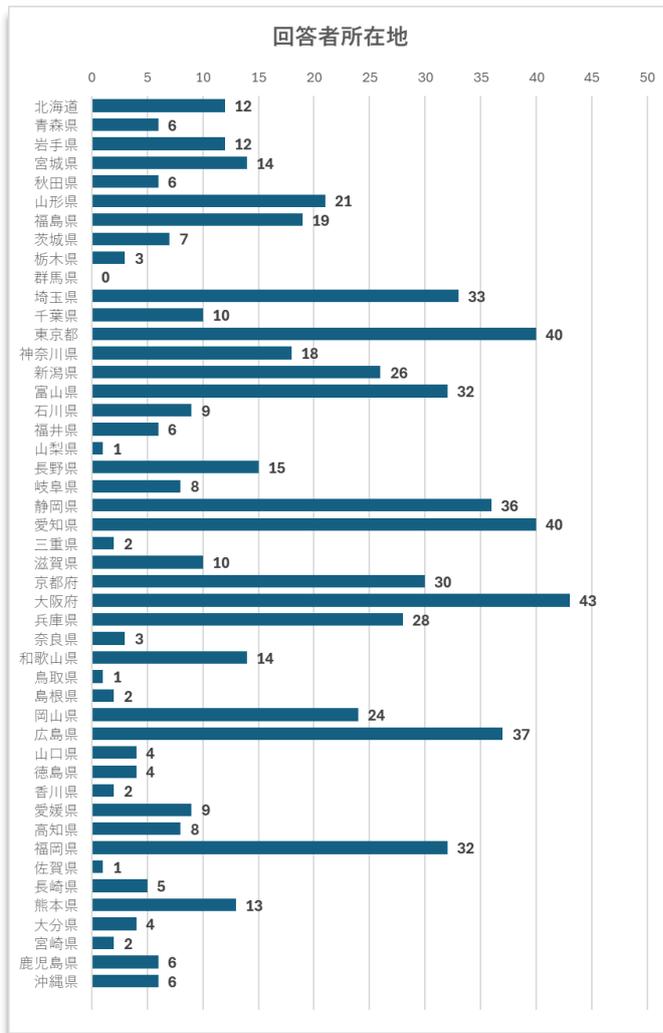
調査概要

調査期間：2024年10月中旬～11月中旬

回答数：664件

0. 回答者の基本情報

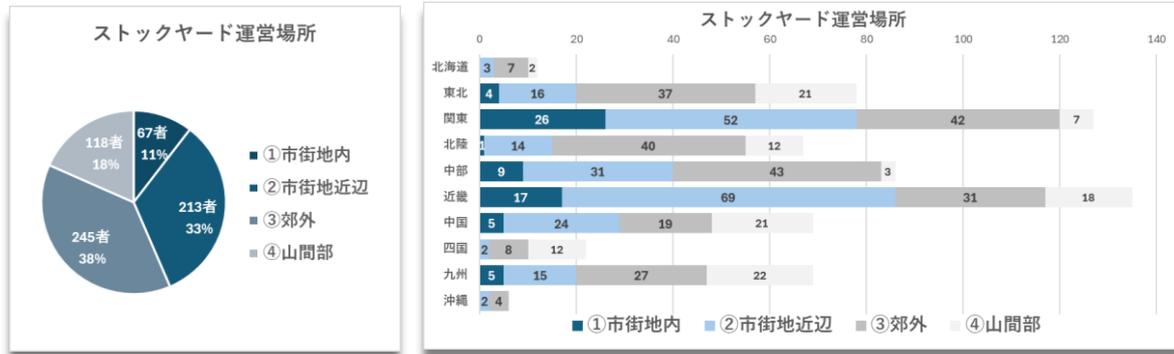
都道府県別の回答者所在地、ストックヤードの運営状況は以下のとおりです。



1. ストックヤードの運営場所

登録ストックヤードが位置する場所について「市街地内」「市街地近辺」「郊外」「山間部」に分けて確認しました。

全国的には、「市街地近辺」及び「郊外」が多く占めており、関東及び近畿においては、「市街地内」「市街地近辺」の割合が高く、中国、四国、九州においては「山間部」の割合が高い結果となりました。平地が多い都市圏においては、市街地に近接した場所で多く運営されています。



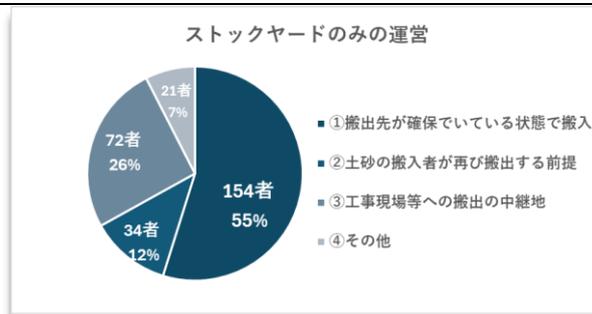
2. 搬入土砂の実態

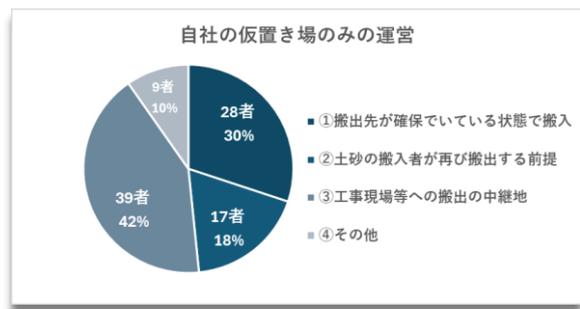
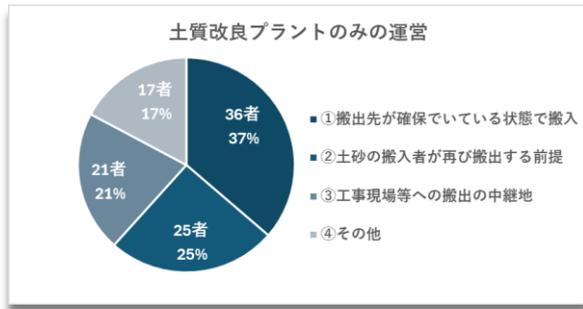
登録ストックヤードに搬入される土砂について、どのような条件で受け入れているのか把握するために、ストックヤードの運営状況ごとに確認しました。

ストックヤードのみの運営においては「搬出先が確保できている状態で搬入」されているケースが多く、自社の仮置き場のみの運営においては「工事現場等への搬出の中継地」の割合が高くなっています。

土質改良プラントのみの運営においては、顕著な傾向が見られないものの改良土として販売が多く行われている状況となっています。(9. 参照)

なお、その他の回答としては「盛土材等として販売」「受入実態がない」といった内容が見受けられます。



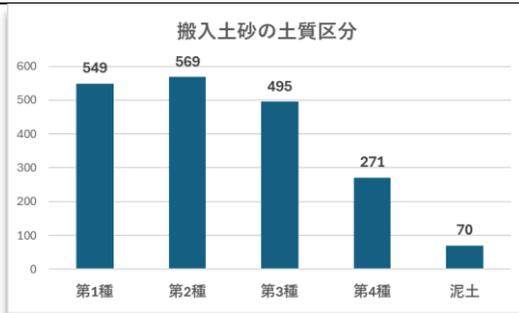


3. 搬入土砂の土質区分

登録ストックヤードに搬入される土砂について、どのような土質区分（第1種～第4種建設発生土及び泥土）を対象にしているのかを確認しました。

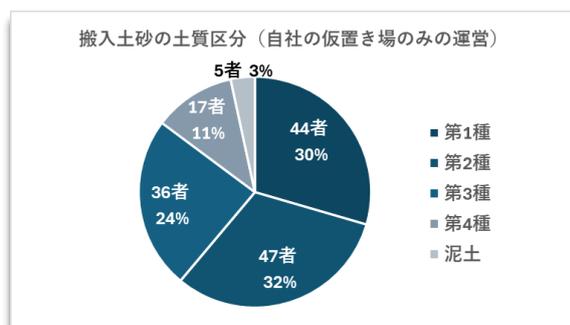
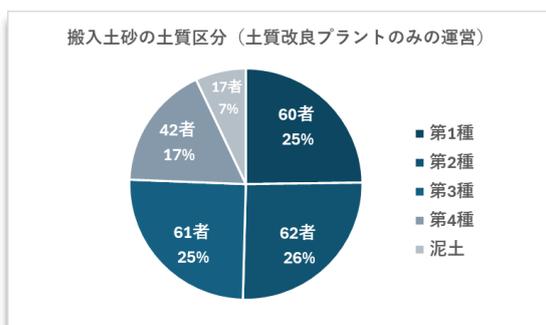
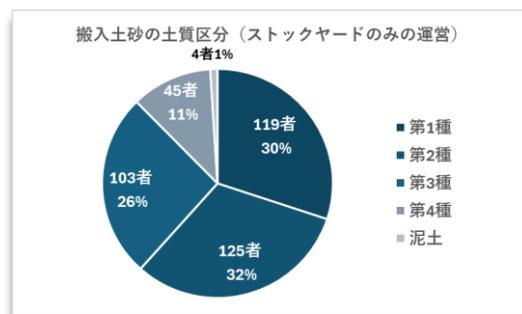
第1種～第3種建設発生土の割合は高く、第4種建設発生土や泥土など、改良が必要な土砂を対象にしている事業者は少ないという結果となりました。

ストックヤードのみの運営と土質改良プラントのみの運営を比較した結果、土質改良プラントのみの運営においては第4種建設発生土及び泥土を搬入する割合が比較的高いことが見受けられます。



	全645者	割合
第1種建設発生土	549	85%
第2種建設発生土	569	88%
第3種建設発生土	495	76%
第4種建設発生土	271	42%
泥土	70	16%

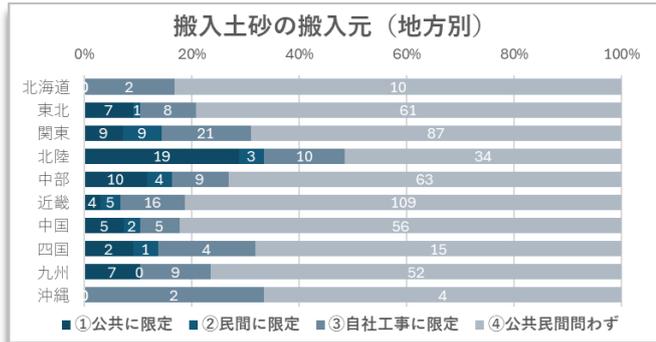
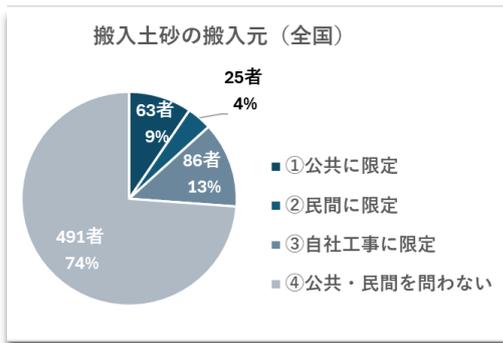
※本設問に回答があった事業者を対象に割合を算出



4. 搬入土砂の搬入元

登録ストックヤードへの土砂の搬入元について「公共に限定しているのか」「民間に限定しているのか」「自社工事に限定しているのか」「公共・民間を問わない」としているのかを確認しました。

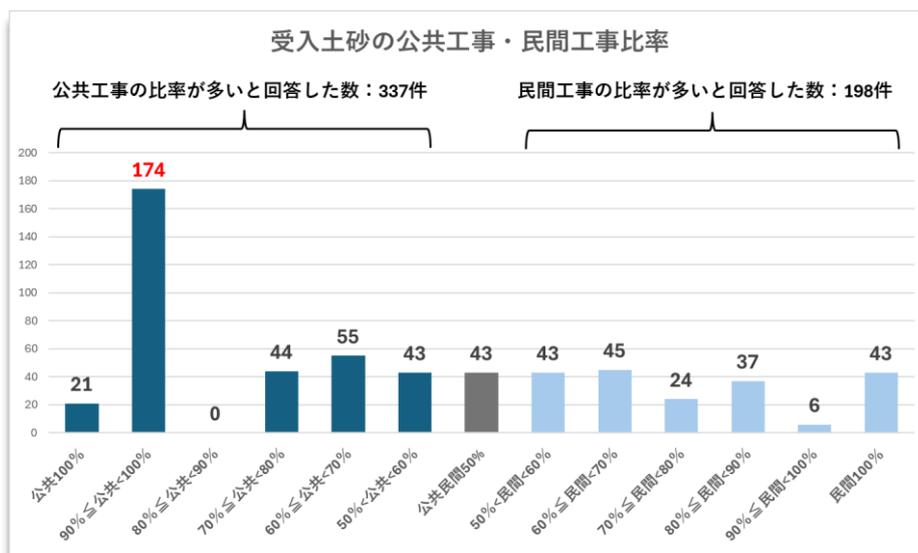
搬入元としては、全国的に見ると「公共・民間問わない」が最も多い結果となりました。地方別の割合を見ると、北陸において「公共に限定」の割合が高くなっています。



5. 搬入元が「公共・民間問わない」と回答した方の比率

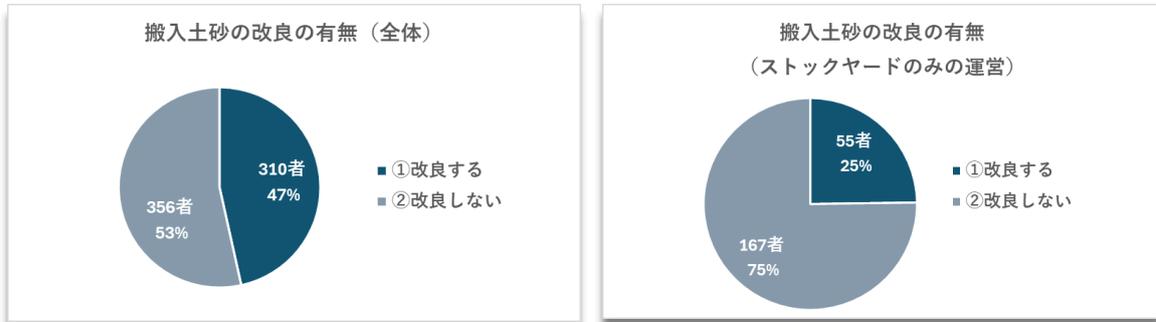
4. で「公共・民間問わない」と回答された事業者に対して、公共工事と民間工事の受入れる割合について確認しました。

公共工事からの搬入の割合が高いと回答された方が民間工事より多くなっています。特に公共工事からの搬入が90%以上100%未満との回答数が多くなっています。



6. 搬入土砂の改良の有無

登録ストックヤードに搬入された土砂の改良の有無について確認しました。全体としては、約半数の事業者において改良が行われています。また、ストックヤードのみの運営事業者においても、25%の割合で改良が行われています。

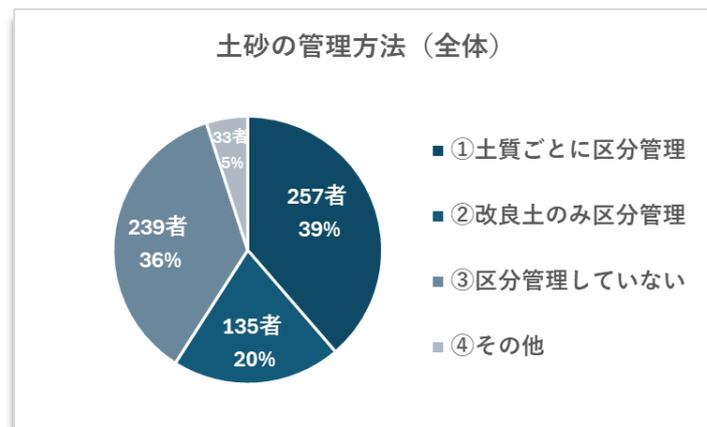


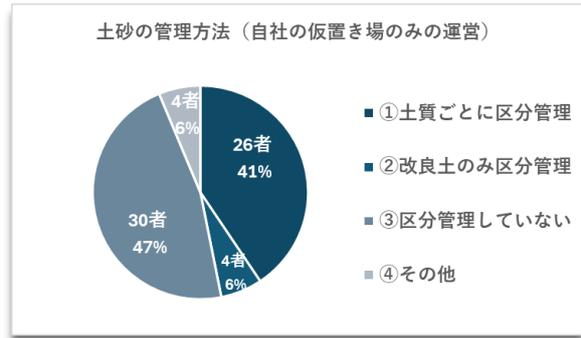
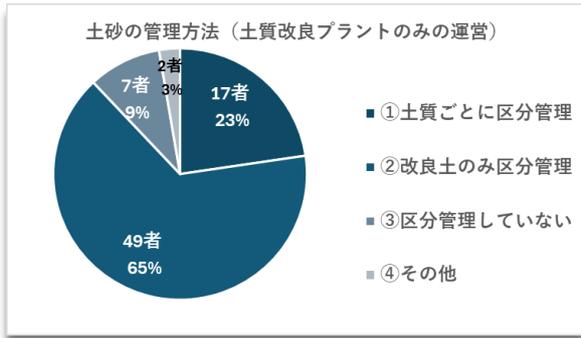
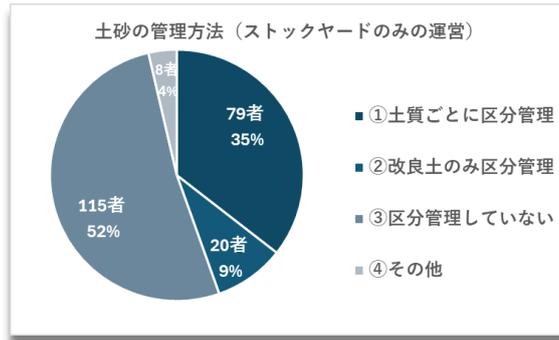
7. スtockヤード内での土砂の管理方法

登録ストックヤード内における土砂の管理方法について、どのように管理しているのかを確認しました。

事業者全体では、「土質毎に区分管理」「改良土のみ区分管理」など、区分管理を行っていると回答した割合は約6割となっています。土質改良プラントのみの運営においては、その割合が約9割と高くなっています。

その他の回答の中には「工事現場ごとに区分管理している」といった内容が見受けられます。

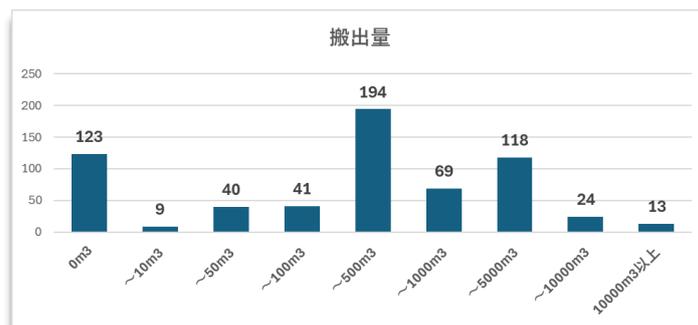
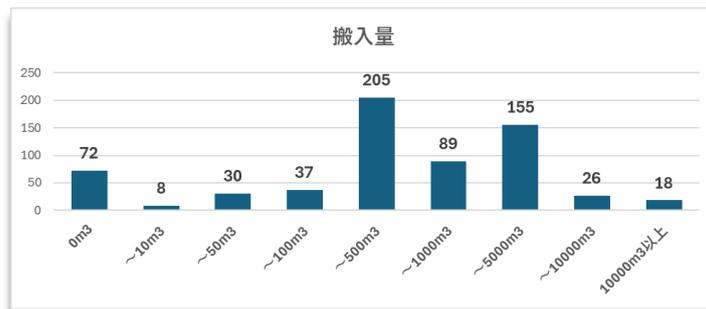




8. 土砂の搬入量と搬出量の1ヶ月平均

1ヶ月にどれだけの土砂が搬入及び搬出されているのかを確認しました。

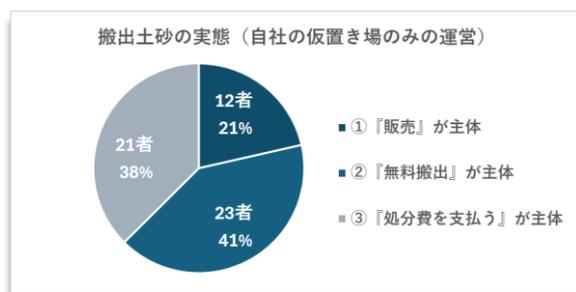
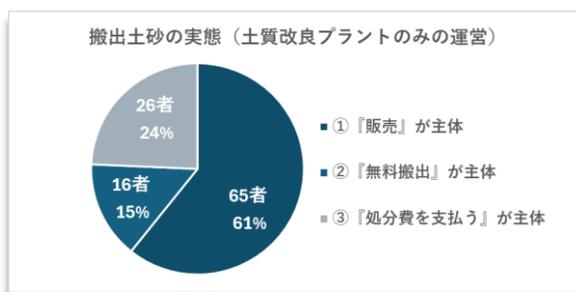
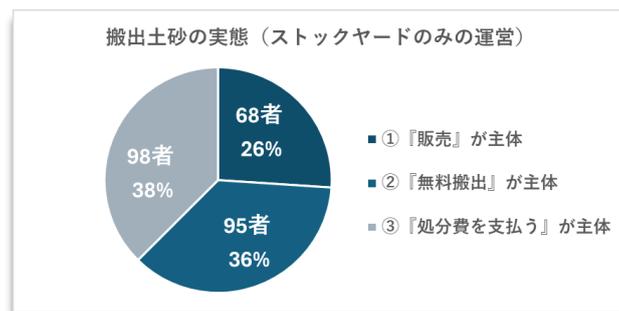
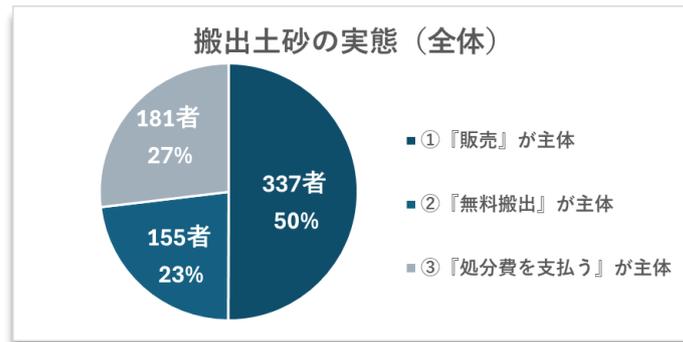
搬入量、搬出量ともに、「100～500m³」が最も多く、次いで「1,000～5,000m³」が多い結果となりました。なお、「0m³」につきましては、事業開始後間もないことから搬入・搬出の実績が無い事業者が含まれているためです。



9. 搬出土砂の実態

登録ストックヤードから搬出する土砂について、どのような方法で、どこに搬出されているか把握するために、『販売』主体』『無料搬出』が主体』『処分費を払う』が主体の3つに分けて確認しました。

全体としては、『販売』が主体が約半数を占める結果となりました。運営別で見ると土質改良プラントのみの運営においては、『販売』が主体の割合が高くなっています。

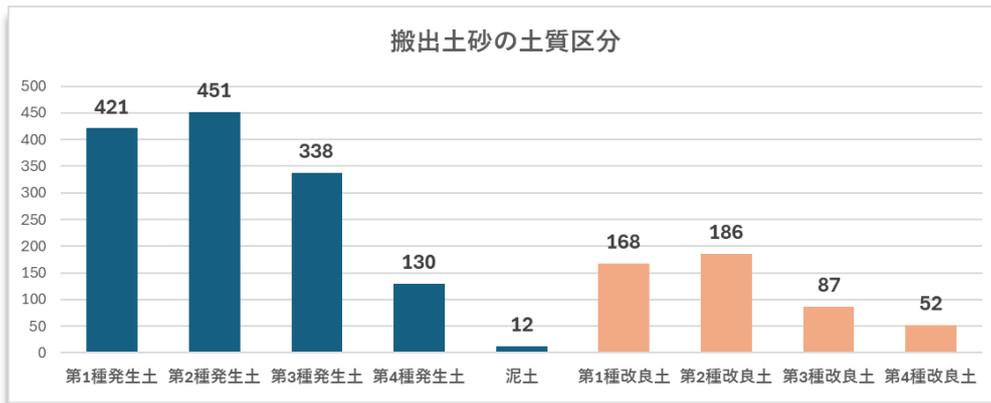


	搬出・販売先代表例	
ストックヤード	①『販売』が主体	工事利用(公共・民間)、埋戻・造成用 等
	②『無料搬出』が主体	自社工事、自社砂利採取場の埋め戻し 等
	③『処分費を支払う』が主体	工事利用、埋立・埋戻し現場 等
土質改良プラント	①『販売』が主体	工事利用(公共・民間) 等
	②『無料搬出』が主体	公共土木工事 等
	③『処分費を支払う』が主体	最終処分先 等
自社の仮置き場	①『販売』が主体	工事利用(公共・民間) 等
	②『無料搬出』が主体	自社工事利用 等
	③『処分費を支払う』が主体	最終処分先 等

10. 搬出する土砂の土質区分

登録ストックヤードから搬出されている土砂について、どのような土質区分（第1種～第4種建設発生土、泥土及び第1種～第4種改良土）を対象にしているかを確認しました。

第1種から第3種建設発生土の割合が高く、第4種建設発生土や泥土は少ないという結果となりました。



	全613者	割合
第1種建設発生土	421	67%
第2種建設発生土	451	74%
第3種建設発生土	338	55%
第4種建設発生土	130	21%
泥土	12	2%
第1種改良土	168	27%
第2種改良土	186	30%
第3種改良土	87	14%
第4種改良土	52	8%

※本設問に回答があった事業者を対象に割合を算出